

資料3

令和8年1月29日
令和7年度第4回瑞浪市地域公共交通協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 瑞浪市地域公共交通協議会
評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション株式会社	日吉＝明世ルート	・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握した。 ・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。 ・東鉄バス明智線の利用促進策として、400円上限運賃制度及び高校生定期券補助制度の導入方針を定めた。 ・デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、市ホームページ及び区長会にて周知を行った。	A 計画どおり事業は実施された。	■利用者数:未達成 【目標数値】 デマンド交通の人口千人あたりの年間利用回数53回/千人・年(令和4年度)	・計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・引き続き区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。
平和コーポレーション株式会社	大湫＝日吉東部ルート	・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握した。 ・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。 ・東鉄バス明智線の利用促進策として、400円上限運賃制度及び高校生定期券補助制度の導入方針を定めた。 ・デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、市ホームページ及び区長会にて周知を行い、釜戸小学校にて実施した。 ・地区の取組みとしては、大湫町の広報紙にデマンド交通の利用状況と利用を呼び掛ける記事を掲載している。	A 計画どおり事業は実施された。	B 【実績】 デマンド交通の人口千人あたりの年間利用回数45回/千人・年 【理由等の分析】 固定の利用者に依存した利用実績であるため、一人が利用しなくなった場合の影響が大きい。新規利用者を開拓し、利用拡大を図る必要がある。 ■収支率:達成 【目標数値】 デマンド交通の収支率12.6% 【実績】 デマンド交通の収支率13.2% ■市の運行費用負担額:達成 【目標数値】 デマンド交通に係る市の運行費用負担額5,311千円を維持	・計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・大湫町は他の地域と比べて人口がかなり少ないことが稼働率の低さに繋がっていると考える。稼働率を上げるためには、便数の見直しや他ルートと併せた効率的な運行を検討する必要がある。
平和コーポレーション株式会社	釜戸ルート	・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行った。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握した。 ・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。 ・東鉄バス明智線の利用促進策として、400円上限運賃制度及び高校生定期券補助制度の導入方針を定めた。 ・デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、市ホームページ及び区長会にて周知を行った。	A 計画どおり事業は実施された。	【実績】 デマンド交通に係る市の運行費用負担額4,710千円	・計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・新規利用者の開拓を図るため、区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。

令和8年1月29日

令和7年度第4回瑞浪市地域公共交通協議会

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	瑞浪市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市の公共交通の構築にあたっては、次の方針で取り組んでいる。</p> <p>(1) 鉄道、路線バス、タクシーの使いやすさ向上</p> <ul style="list-style-type: none">・JRの二次交通施設の整備推進・路線バス利用の促進・タクシー利用の促進 <p>(2) 地域の特性や住民ニーズにあった交通手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・コミュニティバスのルート、ダイヤの見直し・利用実態を踏まえ、デマンド交通への見直し・デマンド交通の行き先等の見直しなど利用の促進(大湫～日吉東部ルート等)・スクールバスとの連携 <p>(3) 共創で支える地域公共交通</p> <ul style="list-style-type: none">・観光・福祉・商業等の他分野、住民・事業者との「共創」を推進・東濃中部地域の新病院へのアクセス確保・自動運転バスやMaaSといった新たな技術等を活用した持続可能な交通の確保・事業者と連携したバス・タクシー運転手の確保 <p>【フィーダー系統の必要性】</p> <p>市内を運行しているデマンド交通については、市内の地域間移動を担う重要な路線としての役割に加えて、地域間幹線系統に接続することで、市民の広域移動を補完する役割を担っている。</p>